

月刊 介護保険

介護に携わる人の
応援マガジン

特集

軽度者の給付 見直しは必要か

社会保障・税一体改革の課題を聞く

2013

8

vol.210

● 現地ルポ—自治体編

ワークショップで住民の意欲を引き出す
神奈川県平塚市の取り組み

● 現地ルポ—事業者編

入居者本位の運営で看取りにも対応
介護付有料老人ホーム「グリーン東京」(東京都羽村市)

● レポート

ロボット介護機器開発を成長戦略に
介護予防分野での効果検証もスタート

街

へ出よう！

「トラベルヘルパーが教える外出の

コツ

」

地域交通を使いこなす②

新幹線では「多目的室」を賢く利用

要介護度5の砺波サキさん(106歳)には、娘のみどりさんともう一度、秋の京都で紅葉狩りをしたいという夢があります。

人は生きるかぎり、それぞれが夢をもち、さまざま希望を抱き続ける力をもっています。しかし現実には、周囲に気兼ねをして、みんなあどこかで夢を諦めているのではないのでしょうか。

娘のみどりさんから旅行の相談を受けたトラベルヘルパーは、サキさんの身体にできるだけ負担の少ない移動手段を考えました。サキさんは要介護度5ですし、移動時間は短いほうが望ましいのです。

サキさんが入所している横浜の施設の担当者で打ち合わせをして、移動には新幹線を利用することにしました。最寄り駅までは介護タクシーを使い、到着駅の京都駅からはまた介護タクシーを利用して観光します。

新幹線の車内には、多目的に使える無料の個室として「多目的室」があります。「多目的室」は大人が横になれるほどのスペースで、授乳や具合が悪くなった人が休息できます。一部の新幹線では、身体障害者等があらかじめ「多目的室」を席として予約することが可能で、乗車の際に駅員が車両まで案内してくれます。

出発当日にはツアーの最終確認を行います。介護タクシーや新幹線などの公共交通を乗り継ぐルートの確認や、現地ドライバーガイドとのミーティングポイントの確認、観光地での入場方法や多目的トイレの確認等を行い、時間配分を行います。当日の天気予報で外気温を確認し雨風対策を練り、周辺の交通環境を再確認し、介護タクシーの配車位置や玄関前からの動線などを確かめます。こうした最終確認を行うために、トラベルヘルパーは利用者との待ち合わせの30分前にはスタンバイしています。

介護タクシーは周囲の交通の妨げにならないように、およそ15分前には配車されます。ドライバーと、お互いに利用者の体調を確認しながら、交通ルート上の事故や渋滞予想情報などのほかに直近の気象情報を考慮しながら、安全運転を第一にベストプランを最終検討します。

同行者がいる場合は、同行者も一緒に確認します。天候や体調変化による予定先の変更など想定される情報を共有し、安全確認と車内や移動中のサービスがスムーズに行われるように確認します。さらに車いすの点検を行い、荷物を含めた持ち物の最終確認を行い、出発です。

介護旅行の手配では、普段と変わらないことを大切にし、日常の介護環境をできるだけ旅先で再現できるようにしています。いつもと同じように安全で快適な時間を過ごし、できるだけ心の負担を少なくしながら、しかも非日常の旅を楽しんでもらおうという欲張りなものです。そのために、すべてのスタッフはそれぞれの持ち場で旅行の前に万全の確認を行うなど、連携プレーのチーム力が問われます。私たちは共に働く一人として、そうした旅のお手伝いができることがうれしいのです。



NPO 法人
日本トラベルヘルパー協会
理事長 篠塚 恭一

PROFILE しのづか・きょういち

株式会社SPIあ・える倶楽部代表取締役。
平成18年にNPO法人日本トラベルヘルパー
(外出支援専門員)協会を設立。